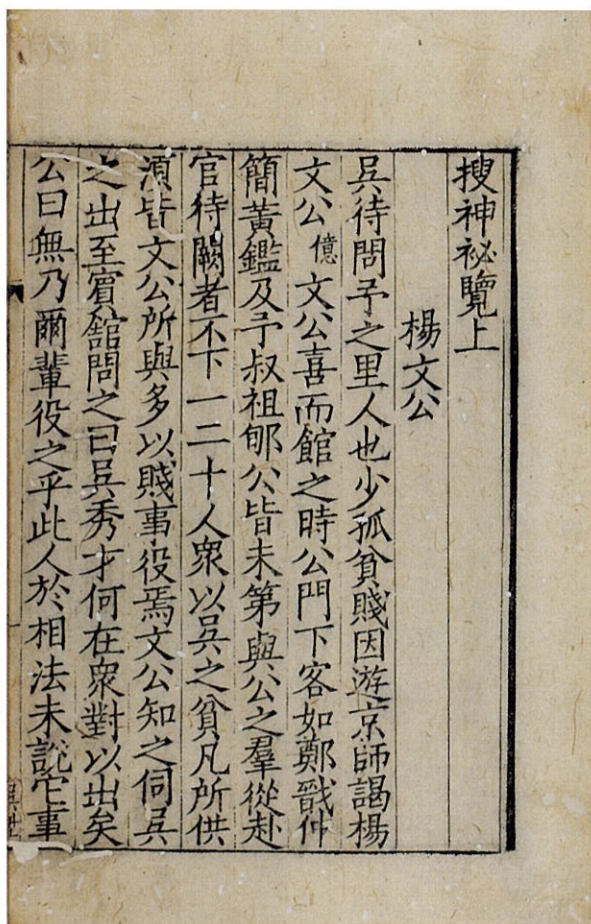


やまとの名品 天理図書館



搜神秘覽上

楊文公

吳待問予之里人也少孤貧賤因遊京師謁楊
文公^億文公喜而館之時公門下客如鄭戩仲
簡黃鑑及予叔祖郇公皆未第與公之羣從赴
官待闕者不下一二十人衆以吳之貧凡所供
湏皆文公所與多以賤事役焉文公知之伺吳
之出至賓館問之曰吳秀才何在衆對以出矣
公曰無乃爾輩役之乎此人於相法未訖宅事

そうしん ひらん

搜神秘覽

重要文化財

章炳文著

南宋 光宗・寧宗朝(1189~1224)刊

3卷1冊

縦25cm 横17.5cm

鬼神や妖怪の伝説、有名人の逸話など、宋代の奇異雑話を集めた作品。著者は北宋の章炳文。南宋の光宗・寧宗朝頃、当時の首都・臨安（現在の杭州）で出版された。

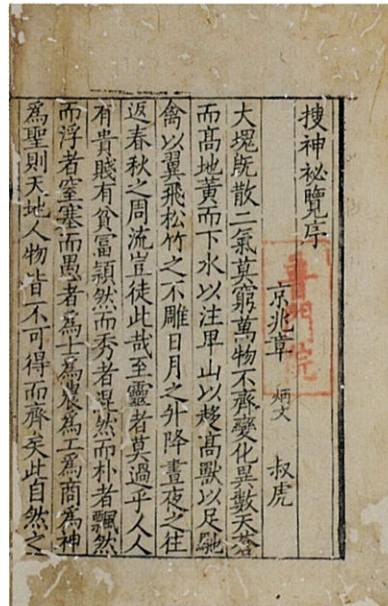
唐代に始まる中国の印刷術は、宋代に入り、格段に進歩し隆盛を極める。公的な機関による出版だけでなく、営利を目的とする書店も現れ、臨安にも多数の書店が軒を連ねた。掲出書は、その中でも屈指の名書店・尹家書籍舗の出版。宋代に印刷された書物は「宋版」と称され、版刻・紙墨とも優雅で美しく、校正作業も綿密なため内容が正確である上、現存する物が少ない

ことから大変珍重される。

巻首にある朱印「普門院」は、京都・東福寺の塔頭を指す。同寺

の創始者・円爾（一一二〇二〜八〇）は仁治二年（一二四二）、留学先の南宋より多くの書物を携え、三艘の船で帰国の途に就く。しかし、日本に辿り着いたのは、円爾の乗っていた一艘のみ。難を逃れた一艘の中に、この逸品も積まれていた。

掲出書のように三巻揃いの完



本は、日本はもとより中国にも残っていない。この天下の孤本は、民国二十四年（一九三五）、中国では失われ、日本にのみ伝存する善本を覆刻した『続古逸叢書』に収録され、初めて日の目を見ることとなる。

（天理図書館 森山恭二）